

研究の目的と経過

岡山大学文学部では、1992年に考古学研究室で地理情報システムの導入を図って以来、日本史研究室も加わって、地理情報システムやシミュレーションの手法を歴史学および人文科学の広い範囲に適用するための試みを続けてきた。また全学的にも、2004～2010年度国立大学法人岡山大学中期目標・中期計画のなかの「大学として重点的に取り組む領域に関する具体的方策」のひとつに「地理情報システムなどの空間情報科学を用いて、歴史学や考古学をはじめとする人文科学研究を推進する。」という項目を掲げている。

2002年度には岡山大学学内共同研究「自然と人間の共生」のなかの文学部サブテーマ「『環境』と文化・文明・歴史」（代表・山口和子）のなかで、今津勝紀「大宝二年御野国加毛郡半布里戸籍をめぐる」とおよび新納泉「人口変動シミュレーションからみた人間の自然性」の研究を実施し、古代史・考古学の学際的な研究に着手した。

その後、2005年度には「岡山大学学長裁量経費・教育研究プロジェクト」のひとつとして、「空間情報科学を用いた歴史学・考古学をはじめとする人文科学研究の推進」を実施し、学外の研究者や大学院生も加わって、日本史・東洋史・西洋史・考古学のすべての分野で空間情報科学を用いた研究を推進した。このプロジェクトの一環として、各分野の参加者の交流をはかるとともに基礎的なガイダンスを行う目的で、2005年9月3日（土）・4日（日）の二日間にわたり、「歴史 GIS セミナー」を実施することにし、学外にも参加を呼びかけた。その結果、東京・三重・奈良などの遠隔地からの参加もあり一定の成功をおさめた。プロジェクトおよびセミナー参加者を中心に、年度末には『空間情報科学を用いた歴史学・考古学をはじめとする人文科学研究の推進』の研究報告書を刊行した。

2006年度にも、「岡山大学学長裁量経費・教育研究プロジェクト」として「空間情報科学を用いた人文科学研究の推進」を申請したが採択にいたらず、同様の内容で「文学部プロジェクト研究」によって研究を実施することとなった。しかし、2006年12月の段階で追加的に「学長裁量経費・教育研究プロジェクト」の採択が認められ、急遽予算規模を拡大する形で研究をおこなうこととなった。この研究課題においては、それまで歴史学関係の研究が中心であったものを、人文科学のより広い範囲に拡大した。2007年3月29日（木）に、「空間情報科学を用いた人文科学研究の推進」と題して研究交流集会を開催した。

こうした研究の一方で、グローバル COE の人文科学分野への申請が計画され、「時空間情報科学を用いた文化動態学の創出」の名称のもとに全学の13人の教員によるプロジェクト案を2007年2月に提出することとなった。

以上のような研究の流れを受け、2007年度には全学の特別配分経費（学内 COE 研究支援経費）として「時空間情報科学を用いた文化動態学の創出」を申請したが採択にいたらず、「文学部プロジェクト研究」として、「時空間情報科学を用いた歴史研究の刷新」を実施することとなった。この研究課題は、「地理情報システムやシミュレーションをはじめとする手法を用いることにより、歴史学や考古学の伝統的な研究方法に対して、データの取得と、解析、理論化のすべてのプロセスにおいて、抜本的な刷新をはかる。これにより、文理融合的な歴史研究を進めることができる。」という内容のもので、これまでの研究の流れが分野の拡大を図る方向であったのに対し、デジタルデータの取得から理論化にいたる人文科学研究のプロセスにおける拡大を目的としたところが特色となっている。

具体的な研究計画としては、

- 考古資料の三次元計測を進め、計測手法の確立をはかる。
- 人口変動をはじめとする古代社会動態シミュレーションの方法を追求する。
- 日本・中国・ヨーロッパの環境変動に関する研究を進め、社会動態シミュレーションに適用する方法を検討する。
- 哲学や人文科学の広い視点から新しい研究手法の位置づけを検討する。

という内容であり、新納泉を代表として、永田諒一（ヨーロッパ環境史の研究）、今津勝紀（日本古代史研究）、佐川英治（中国洛陽地域の研究）、出村和彦（貧困問題および本研究課題の哲学的検討）というメンバーで、80万円の研究費の交付を受けた。なお、2008年3月27日（木）に研究交流集会を実施する予定である。

なお、この研究と一定の関係をもつ取り組みとして、倉地克直文学部長のリーダーシップのもとに、2007年度に岡山市デジタルミュージアムとの共催で、以下のような「デジタル歴史考古学」の講座を実施した。

- 6月2日（土） 服部郷図の謎を解く（新納泉）
- 6月9日（土） シミュレーションがひらく古代史 — 人口・災害・集落 —（今津勝紀）
- 6月16日（土） 衛星画像で見る中国古代都市（佐川英治）
- 6月24日（日） 画像を歩く岡山城下町（倉地克直・乗岡 実）

時空間情報科学を用いた歴史研究は、まだ一步を踏み出したばかりである。本書では、今津勝紀が「仮想備中国図」を描き、地域を捉える新しい手法を提示した。佐川英治と永田諒一は、中国と西洋を対象に環境研究を歴史学に活用する方法を模索した。また、新納は研究の基礎となる考古資料のデジタルデータについて、その取得の方法を検討した。そうして、出村和彦は、時空間情報科学を用いた歴史研究の位置づけについて思索をめぐらしている。一見すると統一性に乏しいようではあるが、新しい研究を進めていくうえで欠くことのできない領域であると考えている。とりわけ、技術と哲学の相互作用こそ、人文科学の分野において不可欠の部分であろう。本研究をそうした方向への一步と位置づけ、この分野における研究の進展を模索していきたい。

研究費の使途	
ノートパソコン	97,960
ソフトウェア	74,140
周辺機器	39,300
コンピュータ関係消耗品	79,355
図書	131,319
印刷費	377,700
その他	226
計	800,000

人文学フロンティア2007 岡山大学文学部
ミュージアム講座

デジタル歴史考古学

2007年

6月

各回 14:00~16:00
会場 岡山市デジタルミュージアム4階講義室
定員 80名 受講料無料(4回通して受講して下さい)
事前予約が必要(電話 086-898-3000)

2日(土)

「服部郷図の謎を解く」
新納 泉(岡山大学教授)

9日(土)

「シミュレーションがひらく古代史—人口・災害・集落—」
今津 勝紀(岡山大学准教授)

16日(土)

「衛星画像で見る中国古代都市」
佐川 英治(岡山大学准教授)

24日(日)

「画像を歩く岡山城下町」
倉地 克直(岡山大学教授・文学部長)
乗岡 実(岡山市教育委員会文化財副専門監)



岡山大学文学部
岡山市津島中3-1-1
086-251-7345 (庶務係)



岡山市デジタルミュージアム
岡山市駅元町15-1 TEL (086)898-3000
<http://www.okayama-digital-museum.jp>



「デジタル歴史考古学」ポスター